

銀座水族館 (七つの海の魚および水産切手)

—(16)—

東京支店 営業第一課 神原 勇

エイ目

アカエイ科アカエイ

学名: *Trygon Pastinaca*

英名: butterfly ray

トビエイ科トビエイ

学名: *Myliobatus aquila*

英名: sting ray

イトマキエイ科イトマキエイ

学名: *Manta birostris*

英名: devil ray

エイはサメ類と極めて近縁の種で(共に板鰓類と呼ばれる), 著しく縦扁し上下に扁平な体形をしていてタコのような葉形か蝶形をしている。板鰓類の大きな特徴は他の硬骨魚類と異なりすべての骨が軟骨からできている。

また体の上面には吸水孔と呼ばれる大きなまろい穴がついていて、ここより海水を吸い込むが呼吸するにしたがい逆流しないよう逆止弁の働きをする弁がついている。体の下側には二列の鰓裂(サイレッツ)があって吸水孔より吸入した海水を排出する。他のもう一つの大きな特徴は腸の中のラセン弁であるが、これはたんなる弁ではなくラセン勾配の原理により腸の吸収面積を増加させるためのものである。成人男子の腸の長さが約9mあるのに対し体長2mのサメ類では2mしかないのに、一連のラセンがつぎつぎに重なりあって消化されるので、限られた長さで内面積に対して吸収面が非常に広いことになる。

遠洋まぐろ延縄漁船が熱帯および温帯海域操業

の際、メバチ・キワダ・サメなどに混じって、ときおり畳二枚分程の大きさのものが漁獲される。これがイトマキエイで、この巨大なるイトマキエイは英名 devil ray (悪魔のエイ) という別名で呼ばれ、その頭部先端の口の両側にある2本の角状突起物がグロテスクさを倍加している。海面近くを飛び回り横なぐりに着水するというすばらしい習性をもっているが、この跳躍は自分の体表についている魚ジラミを振り落とすためであるといわれる。

トビエイは頭の形がトビに似ているところからこう呼ばれるが、普通砂泥底近くに生息し二枚貝その他底棲生物を捕食している。砂の中に埋もれている二枚貝を捕えるには胸ビレを使って掘りおこす。海底の環境に適応するため口は体の下側に、体型は上下に扁平となっている。

エイは尾ビレがなく、胸ビレが極端に変形して両側に移り扁平な体形を形成している。

泳ぎ方は胸ビレの前縁がまずあおられてこれが後方におよび進んでいく。方向転換のときは片方の胸ビレを止め、もう一方の胸ビレをたたいて行なう。尾は一般的に体長よりも長く、かつやわらかいので上下左右のみならず頭の方へもはじきあげたりすることができる。尾の付け根には毒をもったトゲがあるが、これに刺されると動物の血管系統に作用し激しいけいれんを起させ死に至ることもある。世界各地の未開人はこのトゲを槍のほこ先に使ったりしている。

エイ目

アカエイ科 アカエイ: *Trygon pastinaca* : butterfly ray
 トビエイ科 トビエイ: *Myliobatus aquila* : sting ray
 " マダラトビエイ: *Stoasodon narinari* : spotted ray
 イトマキエイ科 イトマキエイ: *Manta birostris* : devil ray

トビエイは全世界、温帯から熱帯にかけて分布する。本型は菱形でグンググサレヨウナ平たい形が特徴。尾部は細長い紐状、尾が長い。尾の付け根には鋭い棘がアツク毒腺をもち、刺されると強烈な痛みを感じる。泳ぎは速い。体表は黄褐色で斑模様がある。5~8月頃、8尾位の胎児を産む。肉は不味である。



アカエイ ルーマニア - 1964



イトマキエイ 東アフリカ連邦 - 1960



アカエイ ブルガリア - 1965



マダラトビエイ 英領印度洋地域 - 1968



イトマキエイ 佛領アファルイサ - 1971



トビエイ 佛領ソマリ半島 - 1959